

# 活動報告会

今年度は

人文社会科学部の専門科目「プロジェクト実習」は、受講生が地域の中でプロジェクトに取り組むことを通じて、社会人基礎力を身につけることを目的に開講されている PBL (Project Based Learning) 科目です。「活動内容」「活動を通じた学び」に加え、今年度はさらに、夏休みに受講したプレゼン講座を踏まえて「皆様にどうお伝えするか」にもご注目戴ければ幸いです。

## ● 総合

KITAIBA Art Project チーム いきたいきたいばらきづくり

## ● 地域連携・地域貢献

さとみ・あいチーム 地域の方と交流し里美を元気にする！里美の魅力発信

## ● 国際交流・異文化理解

D-CEP チーム Connect! International Project for Students

## ● PBL 型インターンシップ

Domaine MITO チーム まちなかワイナリーでおともだちを作ろう

チームみなと☆ミライ ほしいも × 商店街 那珂湊を訪れるきっかけづくり

いばっぴ団チーム 案内板改革とカフェ巡りマップで、市内バスの利用促進！

## ● 連携高校

水戸農業高等学校食品化学科 4年目への挑戦と今後の課題 一里川カボチャを活用してー

日時

平成 29 年  
12 月 9 日(土)

13:00 ~ 16:15 (12:10 受付開始)

\* 12:20 ~ 12:50 に、プロジェクト実習受講全 6 チーム  
ならびに茨城県立水戸農業高等学校食品化学科生徒による  
活動報告を、ポスターセッション形式で実施します。

会場

茨城大学 人文社会科学部 10 番教室

主催 茨城大学人文社会科学部

共催 茨城キリスト教大学／常磐大学／  
茨城県立水戸農業高等学校

後援 水戸市／常陸太田市／北茨城市／Domaine MITO 株式会社／  
みなとみらいプロジェクト実行委員会／株式会社 魚の宿まるみつ

活動報告会に関するお問い合わせは

☎ 029-228-8115 または

メール atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp 鈴木敦まで

担当教員より

「プロジェクト実習」は、2012 年度の初開講以来、地域の皆様ならびに連携する大学・高校の皆様から様々なご支援を戴きながら、実践と改善を積み重ねて参りました。2017 年度は 6 つのチームが成立し、自ら設定したプロジェクトに積極的に取り組んで参りました。1 年間の取り組みの成果をご報告し、会場の皆様に投票という形で評価して戴きます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

茨城大学 人文社会科学部教授 鈴木 敦

# 活動報告会

- 0 ポスターセッション（人文社会科学部講義棟） 12:20—12:50  
プロジェクト実習受講全6チームならびに茨城県立水戸農業高等学校食品化学科の活動報告
- 1 開会挨拶 13:00—13:10  
田中裕（人文社会科学部副学部長・評議員）
- 2 趣旨説明 13:10—13:25  
鈴木敦（プロジェクト実習担当教員）
- 3 評価の観点と投票方法の説明 13:25—13:35  
神田大吾（プロジェクト実習担当教員）
- 4 プロジェクト実習活動報告第一部 13:35—14:20  
(1)KITAIBA Art Project（キタイバアートプロジェクト）チーム  
(2)さとみ・あいチーム  
(3)D-CEP（ディーセップ）チーム
- 5 休憩（10分） 14:20—14:30
- 6 プロジェクト実習活動報告第二部 14:30—15:10  
(4)Domaine MITO（ドメヌミト）チーム  
(5)チームみなと☆ミライ  
(6)いばっぴ団チーム
- 7 投票 15:10—15:20
- 8 水戸農業高等学校活動報告 15:20—15:40  
(1)新堀俊博（食品化学科教諭）  
(2)食品化学科生徒
- 9 講評 15:40—15:55  
渡辺しのぶ（ラチャンス 代表）
- 10 表彰式・総括と閉会挨拶 15:55—16:15  
佐川泰弘（人文社会科学部学部長）

司会：①～③ 川田 綾香（茨城大学2年）・山本 麻由（茨城キリスト教大学2年）  
④ 小宮山弥来（茨城大学2年）・高土 夏花（県立水戸農業高等学校1年）  
⑥・⑦ 神田 紗帆（茨城大学2年）・塩畑 見咲（茨城大学2年）  
⑧～⑩ 今川菜津美（茨城大学2年）・鈴木 真由（茨城大学2年）



日時 平成29年  
12月9日(土)  
13:00～16:15  
(12:10 受付開始)

会場 茨城大学  
人文社会科学部 10 番教室

水戸キャンパス

JR 水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」に乗り、「茨大前営業所」で下車。  
バス乗車時間は約30分。

茨城交通 HP ▶ <http://www.ibako.co.jp/>

お問い合わせは \_\_\_\_\_  
☎(029-228-8115 または  
Eメール [atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp)  
茨城大学人文社会科学部 鈴木敦まで

## 平成29年度 プロジェクト実習 授業紹介と報告会趣旨説明

プロジェクト実習担当教員 鈴木 敦  
Atsushi.suzuki.8115@vc.ibaraki.ac.jp

1

## お話の流れ

- 1: PBL授業とは
- 2: プロジェクト実習の骨子・構造・目的
- 3: プロジェクト実習の概要
- 4: 養成される(筈の)能力
- 5: 活動報告会の趣旨とテーマ

2

## PBL授業・プロジェクト実習 PBL授業 とは

**P**roject **B**ased **L**earning  
(課題解決型学習)  
アクティブ・ラーニングの一種  
(負荷・効果とも大)

3

## プロジェクト実習の骨子

- 1: 2~4年生向け専門科目
- 2: 自ら選択した課題にチームで取り組む
- 3: 学生が主人公・教員は「伴走者」
- 4: 3大学+1高校の連携で運用

資料1

4

## プロジェクト実習の構造

授業科目名	プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B	プロジェクト実習 C	プロジェクト実習 D
テーマ	総合	地域連携 地域貢献	国際交流 異文化理解	PBL型 インターンシップ
履修 回数				
対象 学年				
1回目 履修	2-4年	プロジェクト 実習A スタッフ編	プロジェクト 実習B スタッフ編	プロジェクト 実習D スタッフ編
2回目 履修	3-4年	プロジェクト 実習A リーダー編	プロジェクト 実習B リーダー編	プロジェクト 実習D リーダー編
3回目 履修	4年	プロジェクト 実習A メンター編	プロジェクト 実習B メンター編	プロジェクト 実習D メンター編

5

## プロジェクト実習の目的

プロジェクトへの取り組み **を通じた**  
実践的・多面的 **学び**

6

## 見方を変えれば

アクティブ・ラーニングの実践  
地域連携・高大連携・異文化理解活動

社会人基礎力育成の結果としての、各種連携  
各種連携の結果としての、社会人基礎力育成

7

## プロジェクト実習の概要(1) 前期

- (1)履修目的の明確化
- (2)プロジェクト課題提案&質問会
- (3)課題選択&チーム結成
- (4)チーム活動開始
- (5)各種スキルの学習
- (6)社会人特別講義(佐野創太先生)
- (7)プロジェクト構想報告会
- (8)プロジェクト中間報告会

資料2

資料1

資料3

資料4

8

## プロジェクト実習の概要(2) 夏休み

- (9)チームの自発意志による活動
- (10)インターンシップ(プロジェクト実習D)
- (11)語彙・読解力検定講座(補強講座1)
- (12).comマスター受検講座(補強講座2)
- (13)総合プレゼン講座(補強講座3)

資料5

9

## 総合プレゼン講座

課題の  
発見と分析

論理の  
組み立て

訴求力のある  
ストーリー化

PPTの操作法

視(聴)覚的效果

身だしなみ  
身のこなし

発声と話法

質疑への  
的確な応答

10

## プロジェクト実習の概要(3) 後期

- (14) 後期キックオフ報告会
- (15) チーム活動継続
- (16) プロジェクト中間報告会
- (17) チーム別・ピーク活動
- (18) 活動報告会リハーサル
- (19) 活動報告会(本日!)
- (20) リフレクション
- (21) 報告書作成 ...2018.4. HP開設予定!

資料6

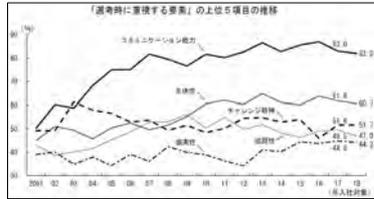
11

## 養成される(筈の)能力

- (1)未知の世界に踏み出す **チャレンジ精神**
- (2)自ら考えて行動する **主体性**
- (3)自らの役割をきちんと果たす **誠実性**
- (4)チームの一員としての **協調性**
- (5)学内・学外の様々な立場の方々と、しっかり意思疎通できる  
**コミュニケーション能力**

12

ちなみに・・・  
経団連新卒採用調査2017



- 1位: コミュニケーション能力  
\* 14年連続1位
- 2位: 主体性
- 3位: チャレンジ精神
- 4位: 協調性
- 5位: 誠実性

13

養成される 筈の 能力

- (1)未知の世界に踏み出す **チャレンジ精神**
- (2)自ら考えて行動する **主体性**
- (3)自らの役割をきちんと果たす **誠実性**
- (4)チームの一員としての **協調性**
- (5)学内・学外の様々な立場の方々と、しっかり意思疎通できる  
**コミュニケーション能力**

14

活動報告会開催の趣旨

- (1)活動の総括
- (2)ご支援下さった皆様へのご報告と御礼
- (3)対学内・対学外広報

15

活動報告会 歴代のテーマ

- 2012年度: PJ実習、3大学連携で始動!
- 2013年度: 受講生のコンピテンシー向上
- 2014年度: 学外からのご支援の拡大
- 2015年度: 授業改善の取り組み
- 2016年度: 高大連携

16

2017年度は・・・

取り組む・学ぶ・伝える



17

では・・・

スタート!

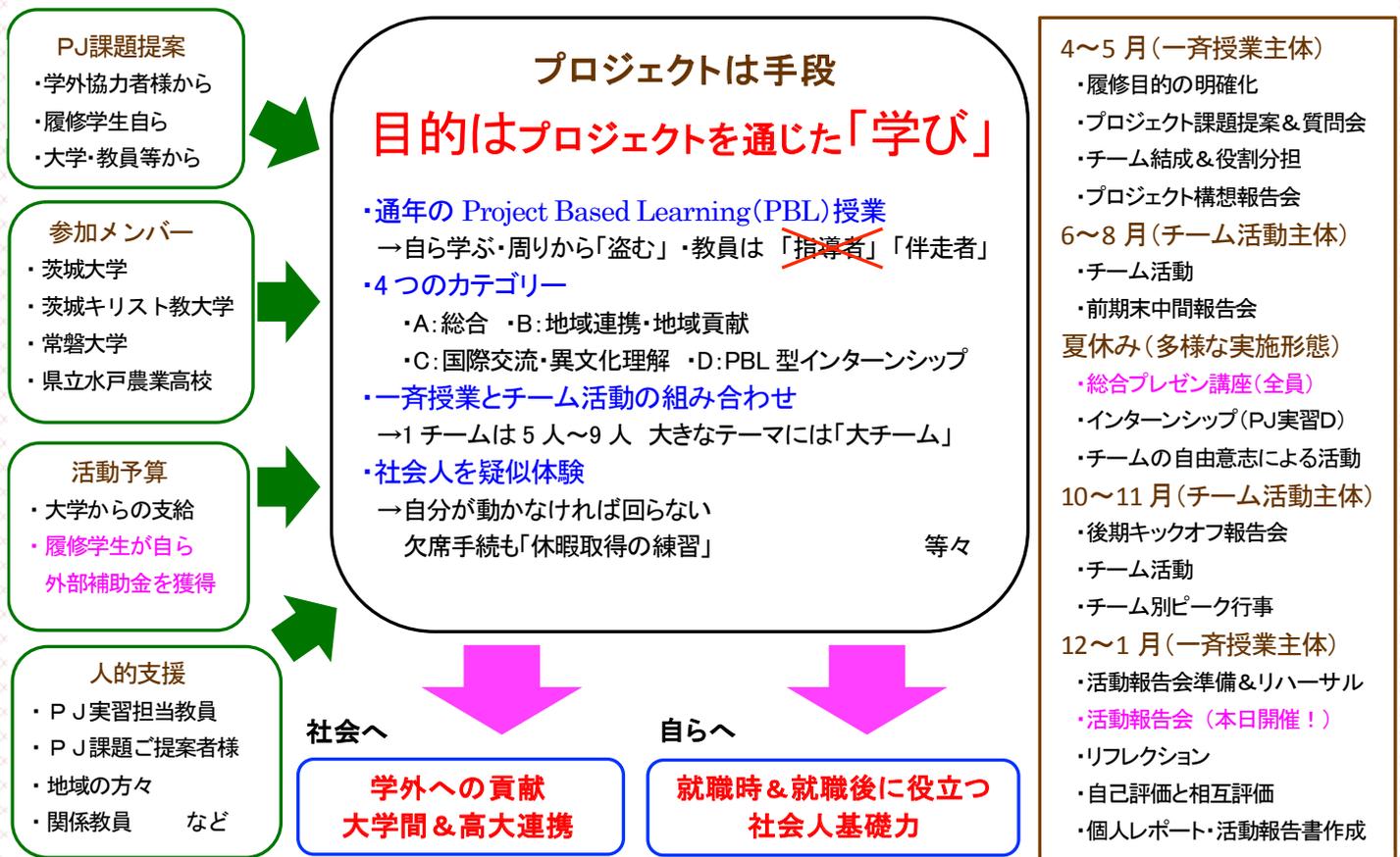
ご清聴 感謝申し上げます

18

# 「茨城学」の、その先へ

— 2～4年生向け専門科目「プロジェクト実習」のご紹介 —

## プロジェクト(PJ)実習とは



2017年度に提案されたプロジェクト課題 (「●●●」は成立チームの名称)

プロジェクト実習A:

地域書店の逆襲・ビブリオバトル茨城県予選会開催! (株式会社ブックエース様&茨城大学教員)

KITAIBA Art Project (茨城大学学生) 「KITAIBA Art Project」

プロジェクト実習B:

若者・よそ者で里美の地域おこし活動 (茨城大学学生) 「カボチャで里美を盛り上げ隊」

イケてる農業で茨城の名産品「わらづと納豆」を守る! (茨城大学教員) 「Comer」

プロジェクト実習C:

異文化交流プロジェクト (茨城キリスト教大学教員) 「D-CEP」

プロジェクト実習D:

公共交通活性化プロジェクト (水戸市役所交通政策課様) 「いばっぴ団」

こみっとフェスティバルに若者の力を! (水戸市役所市民生活課様)

コミュニケーション・リスク対策プロジェクト (NTTコミュニケーションズ株式会社技術開発部様)

まちなかワインで水戸の市街地活性化 (Domaine MITO 株式会社様) 「Domaine MITO」

ほしいもで那珂湊商店街活性化プロジェクト (みなとみらいプロジェクト実行委員会様) 「チームみなと☆ミライ」

\* プロジェクト実習は、2018年度から「プロジェクト演習Ⅰ」「同Ⅱ」として開講します \*

茨城大学版社会人基礎力(根力)の構成要素ルーブリック

構成要素		4	3	2	1	
1 基礎的素養	読み	文章読解能力 論理的思考力 分析力	難解で長大な文章でも、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を論理的に理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、論旨を的確に捉えることができる。筆者の主張を理解・分析し、自らの見解を組み立てることができる	比較的平易で短い文章であれば、ほぼ最後まで読み通し、筆者の主張をある程度まで理解・分析することができる	比較的平易で短い文章であっても、最後まで読み通すことができない。たとえ読み通せても、筆者の主張を理解・分析することができない
	書き	文章作成能力 論理的思考力 分析力	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をルールを踏まえて提示しつつ、4,000字以上の論旨が明確な文章にまとめることができる	特定のテーマについて、論理的に思考・分析することができ、必要な資料をある程度ルールを踏まえて提示できる。4,000字以上の文章を書いた経験は無い	特定のテーマについて、短い文章を書くことができる。論理的な思考・分析や、必要な資料をルールを踏まえて提示することには難がある	「つぶやき」的に短い文章を書くことはできるが、論理的な思考や分析を提示することはできない
	ソロバン	基本的なIT能力	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、初心者に分かりやすく説明することができる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、基本的にマニュアル無しで自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、マニュアルを参照しながら自力で対応できる	基本的なソフトの操作法やネット利用のルール等について、自力では対応できない
	話す	説明能力 プレゼンテーション能力 コミュニケーション能力	公の場で、相手の理解度や受け止め方を読み取りながら、説得力のある説明・魅力的なプレゼンができる。質問や批判をコミュニケーションの機会と受け止めることができる	公の場で、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションに難があり、質問や批判には思わず身構える	フランクな場では、論理的な説明やプレゼンができる。アイコンタクト等、聞き手とのコミュニケーションもとれ、質問にも平穏心で答えられる	親しい人たちとの気楽な会話・コミュニケーションはできるが、第三者への論理的な説明やプレゼンはできない
2 社会生活力	生活力	自立した生活を実践できる力	起床・食事・登校・各種活動から就寝まで、健康的で安定したペースで送ることができる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができる	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースが乱れがちである。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせない(うっかり忘れる)ことがある	起床・食事・登校・各種活動から就寝までのペースがしばしば乱れる。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなせないことが多い	起床・食事・登校・各種活動から就寝まで、健康的で安定したペースで送ることができない。社会生活に必要な諸手続を、確実にこなすことができない
	人間関係構築力	生活を送る上で必要な、人間関係を円滑にするための力	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、常々確実に遵守できる	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、時に違えることがある	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、しばしば遵守できない	差別的物言いや不正な対応をしない等の基本ルール、並びに挨拶や場に応じた言葉遣い・態度がとれる等の基本マナーを、遵守できない
	情報収集力	生活を送る上で必要な情報のありかや、入手方法を把握する力	書籍を含む各種メディアや人脈等を広くかつ有効に活用して、情報の入手方法を的確に把握し、必要な情報を確実に入手できる	情報のありかも情報を入手するための新たなルートの開拓方法も把握している。しかし各種メディアの活用や人脈等が不十分で確実性に難がある	生活を送る上で必要な情報のありかはある程度把握している。しかし情報を入手するための新たなルートを開拓する方法は分からない	生活を送る上で必要な情報のありかが分からない。どうすれば情報を入手できるかも分からない
3 行動力	主体性	物事に進んで取り組む力	物事を自分の問題として受け止め、指示や命令・切迫した必要などが無くとも、自らの定見・計画に基づき、自主的に判断して取り組むことができる	明確な義務を伴う事案については、責任感から率先して取り組むことができる	自らの利害や、興味関心が強い事柄については、自主的に取り組むことができる	指示や命令・切迫した必要があっても、できるだけ他人の後に付いていくことを考え、積極的に取り組むことができない
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	立場の異なる人や初対面の人にも、課題について説得力のある説明をし、協力を促すことができる。また、自分の意見に固執せず全体を纏めることができる	学生同士など、立場の近い人に対しては、さほど親しくなくとも課題を分かりやすく説明し、協力を促すことができる。また他のメンバーへの気配りもできる	親しい友人に対しては、課題について説明し、協力を促すことができる	第三者に対して課題を説明し、協力を促すことができない。或いは、協力は促せるが発言の独り占め・攻撃的言動等で協力者の意欲を阻害させがちである
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	明確な目的を設定し、自分の能力や客観的な諸条件を的確に踏まえた計画を立て、迅速かつ粘り強く行動していくことができる	目的を設定し迅速に行動していくことができるが、計画性に難があり、迷走することもある	目的を設定し、行動して行くことができるが、迅速さや粘り強さに難があり、所期の目的を達成できないこともままある	目的を設定できない。あるいは設定してもその達成に向けて確実に行動することができない
	対応力	物事に流されず疑問に思い主体的に対応する力	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、客観性や自らの定見に照らして疑問がある事柄には、関係情報を検討・確認した上で主体的に対応する	賛同者の多寡・声の大小に拘わらず、自分の意見に合わないものであれば反対の意思表示をすることができる	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見に疑問を感じることもあるが、敢えて主張することはしない	賛同者の多い意見や、「声の大きい」意見には、疑問を抱かず従ってしまいがちである
4 思考力	課題発見能力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握し、明確に言語化して第三者にも提示できる	現状を分析し、背景や原因を追及した上で、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握できるが、明確に言語化することができない	現状を分析し、背景や原因を追及することはできるが、事態を解決・改善するためには何が必要かを把握することができない	現状を、漠然とした諸事象の集合としてしか認識できず、分析や課題発見ができない
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	解決の為のプロセス案を複数用意でき、最善の物を選んで解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、チーム活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの具体的手順・作業内容・時間配分等を、個人活動のレベルで構築できる	解決の為のプロセスを立案し、解決までの道筋を構想できる	解決の為のプロセスを立案することができない。或いは、立案はできるが解決までの道筋を構想できない
	想像力	課題が抱える影響課題解決方法の影響等、ものごとをイメージする力	課題自体や解決に向けた取り組みがもたらす影響といった「目に見えない物」について明確なイメージを持ち、その得失を念頭的確な対応ができる	「目に見えない物」をイメージでき、その得失を念頭に対応を考えるが、イメージの多様性と明確さに難があり、的確な対応策を描けない	「目に見えない物」をイメージし、その得失を念頭に対応を考える必要性は認識しているが、明確なイメージを描けない	課題自体や解決に向けた取り組みの影響といった「目に見えない物」についてイメージすることができない。またイメージする必要性を自覚しない
	課題解決能力	課題の本質を捉え、適切な解決に導く力	課題の本質を捉え、解決のための勘所を明確にした上で、具体的な取り組みに必要な条件を整えて確実に解決に導くことができる	課題の本質を捉えることができ、解決のための勘所を明確にできるが、具体的な取り組みに必要な諸条件の整備に難があり、失敗も多い	情報を客観的に分析して課題の本質を捉えることができるが、解決のための勘所を捉えることができず、適切な解決に導くことができない	周辺情報や個人的利害・感情等に囚われて、課題の本質を捉えることができず、課題解決に取り組めない
5 チームワーキング能力	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	自分の意見を、相手の立場や前提となる知識・文化的背景の違い等も視野に入れて整理し、分かりやすく説得力のある内容・話法で伝えることができる	自分の意見を論理的に整理し、知識・文化の共有が乏しい相手に対しても、明確な内容・話法で伝えることができる	自分の意見を、家族や友人等、基盤となる知識・文化を共有する相手に対しては、その共通性に依拠しつつ分かりやすい内容・話法で伝えることができる	自分の意見を整理し、分かりやすい内容・話法で伝えることができない
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	話者が話しやすい環境を作り、適切なタイミング・内容の質問等で話者の意図を更に引き出しつつ、最後まで集中力を切らさずに聴くことができる	話者が話しやすい環境を作り、最後まで集中力を持って聴くことで、話の筋を正確に把握できる	一見最後まできちんと聴いているが、集中力が続かず、話の筋を正確に把握できない	目を逸らしたり話の腰を折ったりして、話者にとって話しにくい条件を作ったり、注意力を切らして最後まできちんと聴くことができない
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	相手の意見・立場になっって考え、「違う」ことを前提に、相手を理解することができる。自分の意見に固執せずアドバイスを進んで受け入れられる	自分と異なる意見・立場があることを認識でき、アドバイスも素直に受け入れることができる	自分と異なる意見・立場への違和感が強く、アドバイスを受け入れることに抵抗感が強い	自分と異なる意見・立場が存在することを許容できない。アドバイスを攻撃と受け止め、受け入れることができない
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	組織における自分の責務を正確に認識し、自分の意思や言動が相手にどう影響するかを考慮しつつ、組織全体を視野に臨機応変な対応ができる	組織における自分の責務を正確に認識し、組織全体を視野に入れて行動しているが、相手への影響を気にしすぎて臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識はあるが、自分の意思や言動が相手にどう影響するかという意識に乏しく、臨機応変な対応ができない	「組織の構成員としての自分」という意識が無く、物事を自分中心にしか考えられないため、臨機応変な対応ができない
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	法令や規則は勿論、チーム内での取り決め等についても、決められたことは不本意でも遵守する。高い倫理観を持ち、自ら公平公正に努める	法令・規則・チーム内の取り決め等、明確に決められたことには従うが、公平公正等、本人の倫理観に拠る事柄への意識は高いとは言えない	罰則を伴う法令や規則等は遵守するが、チーム内の取り決め等は軽視する。公平公正への意識が低く、往々にして我田引水に陥る	時間厳守等、社会常識レベルの取り決めも遵守できない。公平公正への意識が低く、しばしば我田引水に陥る
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスを感じても成長の機会と前向きに捉え、平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。また、気晴らしの方法を持っている	ストレスを感じても平穏心で冷静な判断を下しつつ課題を遂行できる。しかし前向きに捉えたり気晴らしをすることはできず、不満を蓄積させる	ストレスを感じても投げ出さず、概ね適切に判断し課題を遂行できる。しかし気晴らしの方法もなく、終始イライラして攻撃的になる	ストレスを感じると、適切な判断や課題遂行ができなくなる。気晴らしの方法もないため、終始イライラして攻撃的になる





1 : 「プロジェクト課題」から「具体的プロジェクト」への絞り込み

## PJ課題から具体的PJへ

**PJ課題** :水戸市の公共交通活性化 (2015年度)



絞り込み

列車 ・バス ・タクシー … **バス**

高速バス ・市内バス ・観光バス … **市内バス**

茨城交通バス ・関東鉄道バス … **茨城交通**

広報 ・料金 ・行政 ・使いやすさ … **使いやすさ**

路線 ・本数 ・車両 ・停留所 ・時刻表 … **時刻表**

**具体的PJ** :茨城交通・市内バスの  
**時刻表改善案の提言**

1

2 : プロジェクト構想書作成フォーム

2017プロジェクト実習 プロジェクト構想

作成 年 月 日

\* 必要に応じて、適宜枠を拡大/追加して記入して下さい \*

1: チーム名

2: チームメンバー

担当	氏名	アドレス (e)	備考
リーダー			
副リーダー			
書記			
会計			

3: プロジェクト名

4: プロジェクトの目的

5: プロジェクトの概要

**6.年間スケジュール**  
 できるだけ「〇月前半/後半」位まで絞り込んで記す  
 ＊茨城大学の2017年度夏休みは8/12～9/20 茨苑祭は11/11～12 冬休みは12/27～1/5 春休みは2/24～3/31  
 ＊プロジェクト実習の前期末中間報告会は夏休み直前・後期キックオフ報告会は後期初頭のそれぞれ金1、活動報告会プレゼンハーサルは12/2午後・本番は12/9の予定

**7.成果の検証方法・成功」の基準**  
 個人の達成目標ではなく、プロジェクトの成果の検証。どのような結果が得られれば、このプロジェクトは「成功」と判断できるか？

**8.主な支出項目と予算来源** (現時点で想定される支出項目と、そのざっくりした予想金額)

支出項目	金額(千円)	予算来源	独自予算の調達計画
		支給	
		独自調達	外部補助金調達/茨苑祭等での「稼ぎ」etc.
		独自調達	
		独自調達	
		独自調達	

[項目・金額等に関する補足説明]

\* 支給」は、茨城大学支給のチーム予算 MAX3万円) それ以外は 独自調達」  
 ●行/列の追加/削除は、行/列を指定]→ [ホーム]→ [セル]→ 挿入/削除]  
 ●セル内での改行は [ALT+ENTER]

### 3 : プロジェクト構想書相互評価ルーブリック

構想報告相互評価ルーブリック					
評価対象チーム :	評価者学籍番号 :			氏名 :	
	4	3	2	1	評価
プロジェクト概要	プロジェクトの目的ならびに成果の検証方法・「成功」の基準との整合性が十分である。「いつ」「なにを」「だれと」「どうやって」が明確に伝わってくる。計画全体に蓋然性が高く、今後の順調な展開が予想される。	プロジェクトの目的ならびに成果の検証方法・「成功」の基準との整合性は十分である。また、「いつ」「なにを」「だれと」「どうやって」が明確に伝わってくる。しかし、計画全体の蓋然性は不明確である。	プロジェクトの目的ならびに成果の検証方法・「成功」の基準との整合性は十分である。しかし、「いつ」「なにを」「だれと」「どうやって」が不明確であり、具体的な内容ならびに計画全体に蓋然性を検討できない。	プロジェクトの目的ならびに成果の検証方法・「成功」の基準との整合性が不十分である。	
年間スケジュール	「いつ何をする」「そのために、いつまでに何をする」が明確であり、それぞれのスケジュールの「重みづけ」も明確である。年間を通じた活動の流れが鮮明に把握できる。	「いつ何をする」「そのために、いつまでに何をする」は明確である。しかし、それぞれのスケジュールの「重みづけ」が不明確であり、年間を通じた活動の流れが鮮明に把握できない。	「いつ何をする」「そのために、いつまでに何をする」の一部が不明確であり、年間を通じた活動の流れが鮮明に把握できない。	「いつ何をする」「そのために、いつまでに何をする」がいずれも不明確であり、年間を通じた活動の流れが把握できない。	
成果の検証方法・成功」の基準	成果の検証方法・「成功」の基準共に明確であり、プロジェクトの目的・概要・年間スケジュールとの整合性も申し分ない。「プロジェクト」「プロジェクトを通じた学び」共に、十分な成果を上げられるものと予想される。	成果の検証方法・「成功」の基準共に明確である。しかし、プロジェクトの目的・概要・年間スケジュールとの整合性に疑問が残る、このままでは「プロジェクト」「プロジェクトを通じた学び」共に、十分な成果を上げられるか疑問が残る。	成果の検証方法は明確であるが「成功」の基準が不明確であり、このまま活動に入ったのでは、「プロジェクト」としては成功に見えるが、「プロジェクトを通じた学び」が不明確になってしまうと予想される。	成果の検証方法・「成功」の基準共に不明確であり、このまま活動に入ったのでは、活動の目的・目標を見失うと予想される。	

## 「人を動かす感動のプレゼンテーション技法」

ラシヤンス代表 渡辺しのぶ先生

## 1：シラバス

授業科目 英 訳 名	担当教員	開講 時期	曜日 講時	備考
人を動かす感動のプレゼンテーション技法	渡辺しのぶ	集中		
<b>概 要</b> 【行 50 字で 4 行以内】	本講座は聞き手を感動させて動かすためのプレゼンテーションスキル・すなわち①聞き手の分析 ②納得感を与えるロジカルなストーリー展開 ③話し手の人間的魅力 以上3点を学び、12/9(予定)のプロジェクト実習活動報告会で発表ができるようにする。と共に今後人前で発表する際に役立つプレゼンマナーのスキルを身に付ける。			
<b>キ ー ワ ー ド</b> 【行 50 字で 2 行以内】	聞き手を動かすプレゼンテーション、聞き手の分析、ロジカルなストーリー展開、人間的魅力、プロジェクト実習活動報告会			
<b>到 達 目 標</b> 【行 50 字で 4 行以内】	話し手の主張ばかりではなく、聞き手の欲する情報を提供できる分析力を身に着けると共に、それをいかにわかりやすく伝えるか、視覚情報であるスライド作成技術と話法(デリバリー技術)を習得し納得感のある感動のプレゼンテーションができる人材育成を目的とする。			
<b>授 業 計 画</b> 【行 50 字で 15 行以内】	第1回 インTRODクシヨン(プレゼンテーションの定義と目的) (9/21) 第2回 プレゼンテーションの企画から本番までのプロセス (9/21) 第3回 PREP 話法とホールパート法の実践 (9/21) 第4回 伝わる文書構成はツリー構造 (9/22) 第5回 Power point 操作編①:基本操作の習得 (9/22) 第6回 Power point 操作編②:スライドを「一目でわかる化」する・デザインマスタの作成 (9/22) 第7回 Power point 操作編③:図解とカラーリング (9/22) 第8回 Power point 課題作成①:第11回の課題発表に向けて実習 (9/25) 第9回 Power point 課題作成②:第11回の課題発表に向けて実習 (9/25) 第10回 魅せるプレゼンターのスキル(立ち居振る舞い・発声方法・質問発問(9/25) 第11回 課題発表 (9/25) 第12・13回 プロジェクト実習活動報告会リハーサル (12/2) 第14・15回 プロジェクト実習活動報告会 (12/9)			
<b>履 修 上 の 注 意</b> 【行 50 字で 4 行以内】	「Power point の基本操作ができること」が履修の前提条件である。講義はテキストを使用して解説と演習を反復して行う。第11回では第1回～10回までで習得したスキルを使い5分間のプレゼンテーションを実施し講師からフィードバックを受ける(受講生の人数により代表者のみになる可能性あり)。			
<b>予 習 ・ 復 習 の ポ イ ン ト</b> 【行 50 字で 3 行以内】	第7回までが終了した時点で、第11回に発表する内容を自己学習で作成しておくことを推奨する。第8・9回は最終チェックの時間とする(※第8回で最終チェックを終わらせることができれば第9回で魅せるプレゼンターのスキルを実施し第10・11回で課題発表とする)			
<b>成 績 の 評 価 方 法</b> 【行 50 字で 4 行以内】	プロジェクト発表会時の発表を評価する。評価基準は①デリバリースキル(アイコンタクト・ボディランゲージ・発声・姿勢・発問と質問のスキルなど)②プレゼン内容(基本的構成・聞き手を意識した内容など)③Power point 作成スキル(色彩・図解・キーワードの使い方など)			
<b>教 科 書 ・ 参 考 書</b> 【行 50 字で 4 行以内】	教科書:なし。講師作成のプリントとデータファイルを使用し授業を進める。			

## 2 : テキスト・教材（抄）



## 3 : 授業風景



# リハーサル

## 1：構成

- (1)渡辺先生ご講義（夏季集中講義の復習）
- (2)学生プレゼンリハーサル
- (3)学生による相互評価（採点票記入）
- (4)渡辺先生ご指導

## 2：授業風景



## 評価の観点と投票方法の説明

### 評価項目:プロジェクトの設定

課題提案と具体的なプロジェクトの設定内容を比較すると…

- 趣旨に沿っているか？
- プロジェクトを絞り込んでいるか？
- 実現可能か？

### 取り組み

プロジェクトで設定した内容に対して…

- 質は？
- 量は？
- 活動開始後に発生した課題には？

### 対外的成果

プロジェクト自体…

- 取り組みは十分だったか？
- 実施できたか？
- 対外的に成果を上げたか？

### プロジェクトを通じての学び

活動内容の報告だけでなく…

- 学ぼうという意識は？
- 一年を通じた活動にふさわしい？

### スライドならびに配付資料の出来

文字、図表や写真、そして配布資料により…

- 意図は伝わるか？
- 訴求力があるか？

### プレゼンの出来

- 身だしなみ・動作・言葉遣い・言語の明瞭さ
- 原稿の棒読み…アイコンタクトの不足
- スライドならびに配付資料と口頭での説明内容との連携
- 質疑への応答

活動報告 評価基準シート

評価項目	1 (言うなれば「×」)	2 (「△」)	3 (「○」)	4 (「◎」)
プロジェクトの設定	<p><b>□提案趣旨を逸脱</b> 課題提案と具体的なプロジェクトの設定内容を比較すると、課題提案の趣旨を逸脱したプロジェクト設定になってしまっている</p>	<p><b>□絞り込み不足で無理がある</b> 課題提案と具体的なプロジェクトの設定内容を比較すると、課題提案の趣旨に沿ったプロジェクト設定である。しかし、絞り込みが足りず無理のあるプロジェクト設定になってしまっている</p>	<p><b>□現実的だが物足りない</b> 課題提案と具体的なプロジェクトの設定内容を比較すると、課題提案の趣旨に沿って、実現可能なプロジェクト設定になっているが、内容的には物足りなさがある</p>	<p><b>□現実的かつ魅力的</b> 課題提案と具体的なプロジェクトの設定内容を比較すると、課題提案の趣旨に沿って、実現可能でかつ内容的にも魅力的なプロジェクト設定になっている</p>
取り組み	<p><b>□活動が不十分</b> プロジェクトで設定した内容に対して、質的にあるいは量的に見合った活動ができていない</p>	<p><b>□やや物足りない</b> プロジェクトで設定した内容に対して、最低限必要な活動はできている。しかし、質的にあるいは量的に物足りなさが残る</p>	<p><b>□十分な活動をした</b> プロジェクトで設定した内容に対して、質的・量的に十分見合った活動ができています</p>	<p><b>□十分かつアクティブに活動した</b> プロジェクトで設定した内容に対して、質的・量的に十分見合った活動ができています。加えてプロジェクト開始後に発生した様々な課題に対して、臨機応変かつ積極的に対応している</p>
対外的成果	<p><b>□成果が不十分</b> プロジェクト内容に無理がある、あるいは取り組みが不十分であったため、プロジェクト自体を貫徹できていない</p>	<p><b>□やや物足りない</b> プロジェクト自体は、基本的に実施できた。しかし、プロジェクト内容の乏しさあるいは取り組みの不足により、対外的成果については物足りなさが残る</p>	<p><b>□十分に評価できる</b> プロジェクト自体は、十分に実施できた。適切なプロジェクト内容としっかりと取り組みの結果、対外的に相応の成果を上げることができた</p>	<p><b>□高く評価できる</b> プロジェクト自体は、十全に実施できた。適切なプロジェクト内容としっかりと取り組みに加えて、学生ならではの視点や取り組み方法が活きており、対外的に高く評価できる成果を上げることができた</p>
プロジェクトを通じての学び	<p><b>□学びへの意識が感じられない</b> 活動内容の報告だけに留まり、「プロジェクトを通じての学び」自体への意識が感じられない</p>	<p><b>□やや物足りない</b> 「プロジェクトを通じての学び」自体への意識は感じられる。しかし一年を通じて活動にふさわしいだけの学びが得られたとは感じられない</p>	<p><b>□十分な学びを得た</b> プロジェクト全体ならびに個々の活動に「プロジェクトを通じての学び」への意識が認められる。同時に、一年を通じて活動にふさわしいだけの学びが得られたと判断できる</p>	<p><b>□出色の学びを得た</b> プロジェクト全体ならびに個々の活動に「プロジェクトを通じての学び」への意識が認められる。同時に、一年間の活動としては出色の学びが得られたと判断できる</p>
スライドならびに配付資料の出来	<p><b>□意図が伝わらない</b> 文字が多過ぎる、あるいは図表や画像が少な過ぎるスライドで、分かりにくい。またはスライドと配付資料がほぼ同一内容で、工夫が見られない。その結果、訴求力以前に意図そのものが伝わりにくい</p>	<p><b>□訴求力が足りない</b> 左記1の問題はないが、スライドに図解やデータの提示が少ない。あるいはスライドと配付資料は別立てであるものの、それぞれの特性を活かしていない。その結果、意図は伝わっているが訴求力という点では物足りなさが残る</p>	<p><b>□十分な訴求力を持つ</b> スライドにアニメーションや色使い等で課題を残すものの、左記1・2の問題はない。スライドと配付資料がそれぞれに特性を活かした作りになっている。その結果、十分な訴求力を持つている</p>	<p><b>□高い訴求力を持つ</b> 左記1～3の問題はない。スライドと配付資料がそれぞれの特性を活かすと共に両者が密接に連携する作りになっている。その結果、高い訴求力を持つている</p>
プレゼンの出来	<p><b>□聞きたくならない</b> 身だしなみ・動作・言葉遣い・言語の明瞭さ等、プレゼンの大前提となる部分に難があり、聞きたくないという意欲を持ちにくい</p>	<p><b>□内容を理解しにくい</b> 左記1の問題はないが、原稿の棒読みやアイコンタクトの不足、スライドならびに配付資料と口頭での説明内容との連携が不十分等の理由により、内容を理解しにくい。あるいは、質疑への応答が不的確で、疑問が解消されない</p>	<p><b>□内容を十分理解出来る</b> テーマに基づく説明の流れに不明瞭な部分を残すものの、左記1・2の問題はない。質疑への応答も的確で内容を十分理解出来る</p>	<p><b>□内容を理解し共感を抱ける</b> 左記1～3の問題はない。明確なテーマに基づき、スライドや配付資料を活用しつつ論理的な説明が展開されており、質疑への応答も的確である。その結果、内容を十分理解できるだけでなく、共感を抱くことができる</p>

# 活動報告

大学生の活動について、本冊子掲載資料は発表 PPT をそのまま資料印刷したものではなく、夏季のプレゼン講座を受けて発表 PPT を再構成したものです。

「プロジェクト実習 A」(総合) 茨城大学

(1) KITAIBA Art Project チーム

「プロジェクト実習 B」(地域連携・地域貢献) 茨城大学

(2) さとみ・あいチーム

「プロジェクト実習 C」(国際交流・異文化理解) 茨城キリスト教大学

(3) D-CEP チーム

「プロジェクト実習 D」(PBL 型インターンシップ) 茨城大学

(4) Domaine MITO チーム

(5) チームみなと☆ミライ

(6) いばっぴ団チーム

水戸農業高等学校食品化学科

# 「プロジェクト実習A」（総合）活動報告

## KITAIBA Art Project 最終活動報告会

- ・はじめに
- ・プロジェクトの目的
- ・これまでの活動
- ・成果の検証
- ・今後の展望

### はじめに

県の中でも最北に位置する北茨城市には、茨城大学の五浦美術文化研究所があり、大学と密接なつながりがある。しかし同市と茨城大学学生の間にはあまり接点がない。また水戸などに比べ「学生の力」が比較的弱く、主体的なまちづくりや帰属意識に課題があると考えられる。

### プロジェクトの目的

そこで私たちは北茨城市を拠点とし、「アート×ヨソモノ×ワカモノ」をテーマに同市のまちづくり活動に参画する。地域での活動を通じ、住民の帰属意識(シビックプライド)の向上を狙う。また自身も地域について知り、人々と交流し帰属意識を高めていく。こうして人々が自発的に市を盛り上げていけるサイクルを生み出すことが、このプロジェクトの目的である。

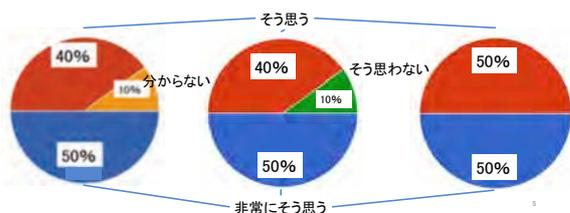
### これまでの活動

6月23日(金) 第1回現地ミーティング  
女性・若者企画提案チャレンジ支援事業  
7月1日(土) 事業プレゼン  
7月8日(土) 事業説明会  
7月23日(日) ブラッシュアップミーティング  
7月25日(火) 第2回現地ミーティング  
8月20日(日) 北茨城市民夏まつり  
9月23日(土) 第3回現地ミーティング  
10月21日(土) 五浦そば試食会  
11月11日(土)12日(日) 五浦そばプレリリース

### 成果の検証

・チーム内意識

「帰属意識は芽生えたか」 「地域の魅力が分かったか」 「活動を継続したいか」



### 今後の展望

WSや商品開発など、当初の狙いに沿った活動を実施することができた。また私達自身も主体的な学びから様々な経験を得ることができた。これらの経験や学びからなる考えに基づき、今後もメンバーそれぞれが主体的に活動を継続していく。

# 「プロジェクト実習B」（地域連携・地域貢献）活動報告



## 目次

- ◆メンバー紹介
- ◆さとみ・あいとは
- ◆常陸太田市 里美地区とは
- ◆今年度さとみ・あいの目的
- ◆活動内容
- ◆活動全体としての成果
- ◆プロジェクトを通しての学び
- ◆今後の展望
- ◆お世話になった方々

2

## メンバー紹介

リーダー 田島彩花・野村明里  
副リーダー 鬼澤麻美・鈴木真由  
会計 羽田野里菜・北野友香  
書記 飯塚子都香・大村みるほ・石橋佳奈・塩手菜々美  
2年 江口紗姫・後藤睦貴・塩畑見咲・高田美菜  
永田典子  
4年 大枝俊貴・助川実咲 計17名

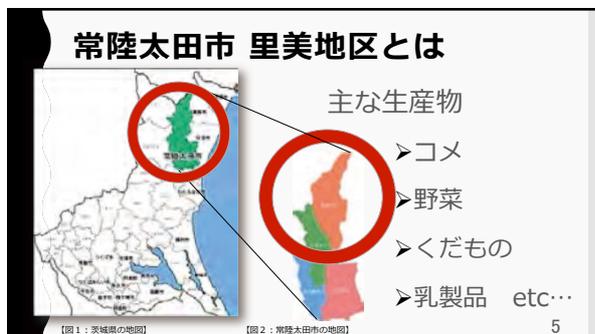
3

## さとみ・あいとは

- ▶常陸太田市 **里美地区**で地域の方々と交流を深めながら地域おこし活動を行っているチーム
- ▶今年度で6年目の活動に突入！
- ▶「里美を愛す」「里美に愛される」「里美での新たな出逢い」という願いを込めて名付けられた

※今年度は「大好きいばらき地方創生応援事業」に活動資金の一部を支援していただいております。

4



## 今年度さとみ・あいの目的

- A) 里美の魅力を **若者・よそ者**にしっかり伝える
- B) 自らが里美に赴き、**交流**をすることによって里美を元気にする
- C) 里美・茨城大学の両方においてさとみ・あいの **知名度**を上げる

6

## 今年度さとみ・あいの目的

- コメ(活動1年目)…Comer
- カボチャ(活動6年目)



…カボチャで里美を盛り上げ隊



7

## 活動内容

### Comer

- 9/16 稲刈り・おだかけ体験
- 11/3・4・5 さとみ 秋の味覚祭

### カボチャで里美を盛り上げ隊

- 10/15 里美 魅力発見バスツアー
- 11/11・12 茨苑祭

8

## 稲刈り・おだかけ体験

日付：9/16

場所：常陸太田市 里美地区大中町

里美倶楽部様 借り上げの圃場

内容：稲刈り・おだかけ

参加者：23名

(一般参加者 3名→目標10名には及ばず) 9

## おだかけとは

刈り取った稲を天日干しすること

→おいしさが増す

藁納豆用の藁に

使用できる



10

## 稲刈り・おだかけ体験

当日さとみ・あいが行ったこと

- 稲を紐で束ねる
- 木組みの「おだ」に稲をかける
- ビニールをかぶせる

(雨によって根元が濡れると乾燥しにくくなるため)

11

## さとみ 秋の味覚祭

日付：11/3・4・5

場所：里美ふれあい館イベント広場

内容：「さとみまい」の販売

さとみまい使用の栗ご飯の販売

同時開催「里美かかし祭」への展示

12

## さとみ 秋の味覚祭

成果：

さとみまい **150kg**

栗ご飯 **43合** 完売



13

## 里美 魅力発見バスツアー

日付：10/15

場所：大中神社→プラトーさとみ

→荷見様宅(カボチャ収穫体験)

→横川の下滝

→里美生産物直売所

14

## 里美 魅力発見バスツアー

参加者：**32名**(目標30名を達成)

内容：(1)さとみ・あいメンバーの  
**おすすめスポット**を巡る

(2)里川カボチャの**収穫体験**

15

## 里川カボチャとは

里美地区の**在来作物**

〔特徴〕

1.ピンク色の皮

2.ほくほくの食感

3.甘さ



16

## 茨苑祭

日付：11/11・12

連携4年目！  
連携によってお互いに学び、  
共にプロジェクトの成功を  
目指して活動を行っている

場所：茨城大学 水戸キャンパス

内容：**里川カボチャのパイ**の販売→310個完売

(水戸農業高等学校食品化学科協力)

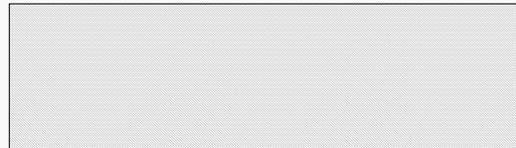
活動内容の**展示**

17

## NHK出演

10/5「茨城ニュースいば6」

10/6「おはよう日本 関東甲信越」



18

## 活動全体としての成果

- 稲刈り・おだかけ体験→目的A・B
- さとみ 秋の味覚祭→目的C
- 里美 魅力発見バスツアー→目的A・B
- 茨苑祭→目的C
- NHK出演→目的C

19

## プロジェクトを通しての学び

- 自然に囲まれて生きているということ
- 学生であることの価値とその利用
- たくさんの支えに気づくこと

20

## 今後の展望

- おだかけをした藁を藁納豆用の藁に？
- 里川カボチャ栽培・稲作の継続
- 「さとみまい」や里川カボチャを使用した料理を販売？

And more... 21

## お世話になった方々

さとみ・あいを  
知ってくださっている  
皆様

22

歴史があるさとみ・あい。

今年度、個性豊かな17人のメンバーが  
6年目の歴史を築いた。

里美と共に活動は続いていく。

To be continued... 23

## 参考・引用文献

図1 環境省 茨城県常陸太田市のレポート [http://josen.env.go.jp/zone/completion/others\\_ibaraki\\_hitachiota.html](http://josen.env.go.jp/zone/completion/others_ibaraki_hitachiota.html)

図2 茨城県常陸太田市HP [http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page\\_001751.html](http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page_001751.html)

図3 さとみ物語 [http://satomimonogatari.jp/event/autumn\\_festi\\_val\\_2017/](http://satomimonogatari.jp/event/autumn_festi_val_2017/)

24

## 異文化交流プロジェクト報告活動会

茨城キリスト教大学2年 山本 麻由 大津 里奈 小野 千秋  
川本 李音 助川 里奈 細川 茜

### ▶ チーム名について

Department of Contemporary English  
+ Culture Exchange Program  
⇒ D-CEP

現代英語学科 + 異文化交流プロジェクト

### 1. プロジェクト始動の動機

**現状** : 国際化が進む日本

これからの世代には外国人との共生がより求められる

**課題** : 現代の子供たちにとって、外国人と直接関わる機会はあまりない

**展望** : イベントを通じて、子供たちに国際交流の機会を提供したい

### ▶ 企画

高校生対象

小学生対象

イベント① 異文化交流プロジェクト

イベント② 小学校国際理解活動

国際化が進展する中であって、広い視野とともに、異文化に対する理解や、異なる文化を持つ人々とともに協調して生きていく態度などを育成していくためには、子供たちにとって極めて重要なことである (文部科学省より [www.mext.go.jp](http://www.mext.go.jp))

### 2. イベント①概要 〈異文化交流プロジェクト〉

日時 : 平成 29 年 7 月 17 日 (月・祝)

場所 : 茨城キリスト教大学 3 号館

参加者 : 全 55 名 うち高校生 36 名、留学生 16 名、インターン生 3 名

(茨城キリスト教学園高等学校 6 名、日立北高等学校 4 名、日立第二高等学校 13 名、水戸第三高等学校 11 名、茨城キリスト教大学 10 名、茨城大学 6 名、他 2 名)

### ▶ プロジェクト実施までの流れ

イベント企画 → 高校生・留学生招待 → 準備・会場設営 → イベント開催

### 3. 企画内容

コンセプト：高校生と留学生の交流

#### I. アイスブレイク

(聖徳太子ゲーム・ジェスチャーゲーム)

#### II. ダンス

留学生にあらかじめ振付を依頼し  
当日高校生に指導してもらった  
練習後、全体でビデオ撮影

#### III. フリートーク

5, 6人の席で自由に話をしてもらった  
各チーム楽しそうにお互いのことや国について  
話していた



### 4. アンケート結果

- ・たくさんの文化に触れることができた、お互いの国について知ることができた
- ・日本人にはあまりみかけない自由な考え方がとても新鮮だった
- ・アイスブレイクのおかげでダンスやフリートークでは緊張がほぐれた
- ・ダンスを通してみんな協力することができた

### 5. イベント②概要〈小学校国際理解活動〉

日時：平成29年11月24日（金）

場所：水木小学校 ランチルーム

参加者：水木小学校児童 6年生 64人

日時：平成29年12月7日(木)

場所：宮田小学校 視聴覚室

参加者：宮田小学校児童 6年生 67人

### 6. 企画内容

コンセプト：小学生に異文化に触れてもらう

## I. 国紹介

狙い：“他国”に興味を持ってもらう  
パワーポイントで観光地や民族衣装、伝統料理を紹介  
現地で使用されている言葉と一緒に挨拶の練習



## II. ゲーム

伝統ゲームと一緒に体験 (Five Stones Game)  
初めて行う遊びに熱心に取り組んでくれた

## III. 質問コーナー

シンガポール出身の留学生に質問タイム  
シンガポールの義務教育についてなど多くの児童が  
積極的に手を挙げてくれた

## 7. 全体を通して学んだこと

### (1) 計画・実行の難しさ

計画を実行に移した際にいくつかトラブルが起きた  
(機材トラブル、人数調整、限られた場所・時間・予算)



実際に出来るかよく考え判断する力

事前に把握・確認することの重要性



KJ法とは…収集した多量の情報を  
カード化し、同じ系統のものでグ  
ループ化することで情報の整理  
と分析を効率的に行う方法。

### (2) 異文化の人々とのコミュニケーションを図る難しさ

留学生と一緒に企画する際に文化の違いが壁になることがあった  
(時間に対する意識の違いから計画通りに進まないことがあった)



相手のバックグラウンドについて理解することの必要性

(3) チームワークの重要性

情報共有が甘く、誰が何をしているか把握できていない

トラブルが起きた際に柔軟な対応ができない

↓

役割分担した上での報告・連絡・相談の徹底

担当者の責任能力

8. 今後の予定

「IC祭」

日時：平成 29 年 12 月 18 日（月）

対象：本学留学生、インターン生

内容：日本文化の体験(昔ながらの遊び、書道体験等)

9. 御礼

大川通昭教頭先生をはじめ、茨城キリスト教学園高等学校の皆さま

黒澤吹美子先生をはじめ、日立第二高等学校の皆さま

片岡卓治先生をはじめ、水戸第三高等学校の皆さま

長山裕司先生をはじめ、日立北高等学校の皆さま

萩庭千佳子先生をはじめ、水木小学校の皆さま

宮田舞先生をはじめ、宮田小学校の皆さま

茨城キリスト教大学 入試広報部の皆さま

茨城キリスト教大学 国際理解センターの皆さま

茨城大学、茨城キリスト教大学留学生の皆さま

茨城大学 杉本妙子先生、神田大吾先生、鈴木敦先生

ご清聴ありがとうございました。

# 「プロジェクト実習D」 (PBL型インターンシップ) 活動報告

プロジェクト実習D

## Domaine MITO team

リーダー: 鶴町 直輝

メンバー: 三枝奈央 水戸部麻実 今川菜津美  
中野拓哉 大徳ちはる 吉川奈緒子

## Domaine MITO(ドメーヌ ミト)とは…?

まちなかワイナリー	ワインツーリズム
・地域活性化 ・地産地消	・自然・人・文化を楽しむ ・水戸の魅力発信

## 目次

- チームの目的
- これまでの活動
  - 1 販売会
  - 2 インターンシップ
  - 3 リリースパーティーのお手伝い
  - 4 試飲販売会
- 成果と学び

## チームの目的

まちなかワイナリーで“おともだち”を作ろう

- ・プロジェクトそのものの目的  
ワインを通じて地域コミュニティを広げる
- ・チームの目的  
社会に出たときに通用するコミュニケーション能力を鍛える

## これまでの活動報告

7/23 京成百貨店でワイン販売

9/23 フェスタ牛久シャトー

9/24 水戸まちなかフェスティバル

11/3 ワインの新作リリース

11/12 茶苑祭

11/24-25 試飲販売会

11/25 インターンシップ

## 販売会

- 7/23 京成百貨店様 グラスワイン販売
- 9/2・3 「牛久シャトー」 グラスワイン販売

・Domaine MITO様の活動への理解  
→どのようにワインをプロモーションしているのか間近で体験

・地域の方々との交流

## インターンシップ

- 詳細: 9/24 水戸まちなかフェスティバル
- 内容: 「アベリティブ365in水戸」のレセプション形式でグラスワインとフランスのお酒・お菓子を販売

ワインの宣伝やフランスについて知ってもらった感覚を得た  
→どのようにDomaine MITOのワインを知っていただくかの切り口となる

7

## リリースパーティー

- 2017年度ワインの紹介
  - ◎水戸・ルージュ 鯉淵・アーリー・スチューベン2017(赤)
  - ◎ヴィニフィエ・水戸 山形・デラウェア・ブラン2017(白)
- 内容: 受付、ワイン提供

学生とDomaine MITOの関係に興味を持つ方が多かった  
→ワインをツールに「学生+Domaine MITO+一口オーナー様」の図

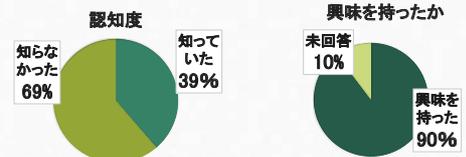
8

## 試飲販売会in京成百貨店

- 内容: これまでの経験をもとに自分たちでワインのプロモーションを計画
- 茨城の人に「水戸産ワイン」を知っていただくことに重点を置いた  
→アンケートにて成果検証

9

## 結果



10

(回答者数 31名)

## 成果と反省

- ◆ 成果
  - Domaine MITOを知らない多くの人に興味を持っていただいた
  - お客様をワインについての話題で盛り上がった
- ◆ 反省点
  - 役割分担がうまくいかず、円滑に進められなかった

11

## プロジェクト実習を通しての学び①

- ワインをツールに地域の方々と交流  
→プロジェクトの目的
- 人と人のつながりにおける礼儀やマナーを身につけられた  
→チームの目的

12

## プロジェクト実習を通しての学び②

- 一つの企画を実行する大変さ
- 目的や意義を明確化しながら企画イメージを具体的に落とし込むテクニック
- 地域やそのコミュニティについて考える

13

## お世話になった方々

- Domaine MITO株式会社 様  
代表取締役 宮本紘太郎 様  
取締役 大塚 巖 様

たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

14

ご清聴  
ありがとう  
ございました。

15

# チームみなと☆ミライ

～那珂湊商店街を訪れるきっかけづくり～

リーダー：秋葉翔太 会計：庄司彩乃

副リーダー：清水悠花 書記：斉藤祐羽、川田綾香

## 目次

1. チーム紹介
2. 活動目的
3. 活動内容
  - (1)会議
  - (2)開発
  - (3)広報
  - (4)夜市・学園祭での販売
4. インターンシップ
5. 成果と今後の展望
6. 全体を通して学んだこと
7. お世話になった皆様

2

## 活動目的

《今年一年》

認知度の向上

→那珂湊へ足を運ぶきっかけづくり

→ほしいもを使った「開発」

→「広報」メディア露出、茨苑賞獲得



当初の目的(商店街の活性化)は次年度以降に

3

## (1)会議

・那珂湊視察後(8月以降)

開発:ほしいもを**パウダー**に!

いろいろな料理に活かせるのではないかと

(パン類、麺類)

広報:新商品とともに那珂湊の魅力**発信**

4

## (2)開発

ほしいも焼きそば

ほしいもプリン

(伊那食品様)



## (3)広報

・チームみなと☆ミライの

Twitter、Instagram アカウント開設

・那珂湊地域を紹介する

フリーペーパー と ポスター 作成

5

## (4)夜市・学園祭での販売

・10/21 夜市(ドーナイトマーケット)へ出店

夜市:毎月第三土曜日 那珂湊商店街近辺

→ほしいもプリンの販売

(50個が約30分で完売)



6

## ④夜市・学園祭での販売

- ・11/2,3 茨キリ学園祭(シオン祭)  
→ほしいも焼きそば販売

- ・11/11,12 茨苑祭  
→活動紹介展示  
→ほしいもプリン販売



茨苑賞2位

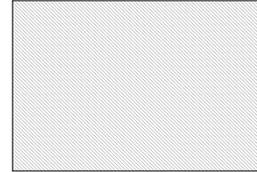
7

## メディア露出

- ・11/14 茨城県庁の方の取材  
→大曾根様経由でプロジェクトに興味(特に焼きそば)

- ・11/22 放映  
NHK水戸放送局「いば6」

目的達成！！



8

## インターンシップ

- ・個人の意見を反映させるために
- ・「インターンシップ構想書」を作成。  
→みなとみらいプロジェクトの活動へ参加  
ほしいも、プリン製造体験

地域おこしの概要

9

## 成果と今後の展望

- 一年間という限られた期間  
那珂湊の活性化や知名度の大幅な向上 ×  
開発・販売・広報を通して那珂湊の魅力を発信し、「足を運ぶきっかけづくり」になった

### 《今後の展望》

- 那珂湊商店街とほしいもパウダーのコラボ  
→那珂湊でしか味わえない「食」が  
「那珂湊へ足を運ぶきっかけ」

## 全体を通して学んだこと

- ①二(三)大学連携の難しさ
  - ・5人そろそろ機会が少なく、分組・情報共有がうまくできなかった
  - ・連携先の増加による活動時間への影響
- ②アクシデントへの対応
  - ・活動目的及び内容の変更 → 想定外の出来事への対応力、柔軟性
  - 現状に合う解決策を模索、解決に尽力

11

## 活動報告会

平成29年12月9日

### いばっぴ団

#### <カフェ巡り宣伝部>

リーダー：小宮山弥来

書記：鹿野はるか 大山愛莉

会計：川瀬葉月 渉外：片見恵都

#### <AB革命隊>

リーダー：五位渕梓

書記：堀奈津美 池田真梨果

会計：井上晴香 渉外：大場貴史

1

## 目次

▶ チームとしての目的

▶ プロジェクトの概要

▶ お世話になっている方々

▶ これまでの活動

1. 地域公共交通利用促進活動助成金

2. カフェマップ作成

3. 水戸駅北口4番乗り場のバス案内板の作成

▶ 今後の展望

1. カフェマップ作成

2. 水戸駅北口4番乗り場のバス案内板の作成

2

## チームとしての目的

(1) 事態の課題をどう改善・解決すべきか考える力  
& 目的を明らかにする力を得る

→ アンケートによる現状分析

(2) 相手の立場を理解し、  
自分の意見をわかりやすく説得し、  
伝える力を得る

→ 様々な方との協力

3

## プロジェクトの概要

① **AB革命起こし隊**  
バスの利用  
しやすくする  
→ 案内板の作成



② **カフェ巡り宣伝部**  
バスの利用客を  
増やす  
→ 「カフェ巡  
り」  
マップ作成

4

## お世話になっている方々

○ 水戸市役所交通政策課の皆様

○ 茨城交通株式会社の皆様

○ 一般社団法人茨城県バス協会の皆様

○ 常磐大学非常勤講師 小佐原孝幸様

○ 各カフェ

(カフェ・トロワシャンプル、コーヒーショップ&Me、

プロカフェ、トロピカル、Café Rin、

OMISE、珈琲問屋、フルーツバスケット)

の経営者の皆様

誠にありがとうございます

5

## これまでの活動

### 1. 地域公共交通利用促進活動助成金

7月21日に茨城県公共交通活性化会議事務局に申請

→ MAX30万円獲得

→ 主に案内板の作成費用へ

6

## これまでの活動

### 2. カフェマップ作成①

ターゲット:茨城大学に新しく入る女子学生

デザイン:親しみやすい手書き風

女子学生向けの可愛いデザイン

表→カフェの具体的説明 裏→地図

新入生のためのいばっぴの説明や乗り場の案内

⇒来年度の入学式での配布を検討

7

## 現時点でのデザイン (表)



8

## 現時点でのデザイン (裏)



9

## これまでの活動

### 2. カフェマップの作成② (8~9月)

掲載カフェの検討及びお店からの掲載許可を頂くためのカフェ巡り



10

## これまでの活動

### 2. カフェマップ作成②

掲載カフェ

- ・カフェ・トロワシャンプル
- ・コーヒーショップ&Me
- ・プロカフェ
- ・トロピカル
- ・Café Rin
- ・OMISE
- ・珈琲問屋
- ・フルーツバスケット

全8店舗

11

## これまでの活動

### 2. カフェマップ作成③ (11月)

茨苑祭でのプリテスト

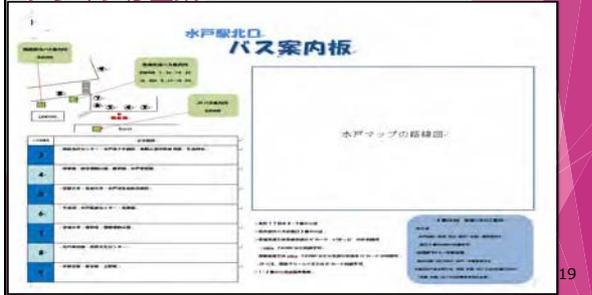
→入学式での配布(検討中)の前に1年生にマップをみてもらい意見をもらう

→意見を元にデザイン案の修正

12



### デザイン修正案1



19

### これまでの活動

#### 3. 水戸駅北口4番乗り場のバス案内板の作成④

○ 小佐原先生からのご指導（10月10日）

- ・ 伝えたい情報の優先順位を決める
- ・ 項目ごとに色分けする
- ・ 特殊な読み方にルビをふる

Etc ...

20

### これまでの活動

#### 3. 水戸駅北口4番乗り場のバス案内板の作成⑤

○ 水戸市役所様からのご意見(10月11日)

- ・ 乗り場の表を左上に記載すべき
- ・ 「みとバスMAP」の路線図記載  
→あくまで仮
- ・ 施設名→「みとバスMAP」に記載されたもの

Etc ...

21

### デザイン修正案2



22

### これまでの活動

#### 3. 水戸駅北口4番乗り場のバス案内板の作成⑥

○ チームミーティング(10月31日)

・ スクリーンに実際のサイズで映し確認

《問題点》

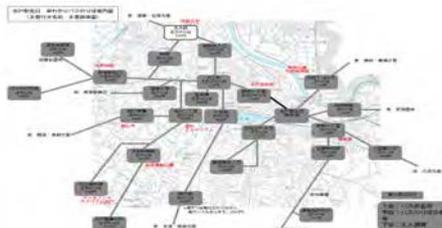
- ・ 文字が小さすぎる
- ・ 路線図見づらい  
→無駄なスペース省き路線図大きく
- ・ ICカード説明→表にする

・ 水戸市役所様からのアイデア提供

23

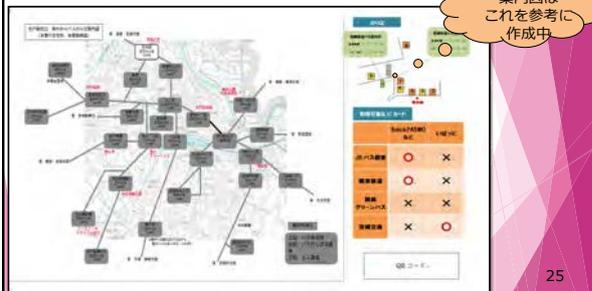
### アイデア提供

乗り場表と路線図併合（料金記載）



24

### デザイン修正案3



25

### 今後の展望

#### 1. カフェマップ作成

茨苑祭で得たご意見を元にマップを修正  
→来年度の入学式での配布を検討  
(現在交渉中)

26

### 今後の展望

#### 3. 水戸駅北口4番乗り場のバス案内板の作成

- 12月 イラストレーターを使用しデザイン案完成  
小佐原先生、水戸市役所の方々に相談
- 1月 バス協会様、各バス会社様との交渉  
(デザイン及び案内板張り替えの許可を頂く)
- 2月～3月31日 案内板作成、完成

27

ご清聴ありがとうございました

28

# 水戸農業高等学校食品化学科 活動報告

## 4年の軌跡と今後の課題

茨城県立水戸農業高等学校 食品化学科 新堀 俊博

1

## これまでの経験（H26年度～）

### ～生徒たちの目標～

- 魅力のある常陸太田市里美地区を多くの人々に知っていただきたい
- 商品開発に興味があった
- 珍しい里川カボチャに興味を持った



### ～教員の目標～

- 高校生活何か目標を掲げ、学校や学科、仲間づくりを構築してもらい進路実現！！

2

## 各年次ごとの目的の設定

### ～生徒たちの目的～

- 1年次・・・里川カボチャの栽培環境を含め、里川カボチャの特徴を調査
- 2年次・・・1年生の時に得た里川カボチャの特徴を活かしたスイーツの提案
- 3年次・・・提案したスイーツについて調査・改善をし、提供の機会を多く

### ～教員の目的～

- 基本的な生活習慣
- 異年齢とのコミュニケーションによるTPOに合わせた発言の習得
- 「食・農」に対する興味関心の向上と基礎的基本的な知識・技術の習得

3

## チャレンジの数々……



4

## 販売させて頂いたスイーツたち



## こんなスイーツも・・・

第1回  
「学校産・地元地域産の食材を使った」スイーツコンテスト  
優秀賞！！



## まとめ～生徒編～

- ・ どのスイーツもまだまだ改善すべき点があると感じた
- ・ 味や見た目だけでなく、商品としての価格やパッケージ等にも気を使い、常陸太田市里美地区で販売しても恥ずかしくないものを作っていきたい
- ・ 里川カボチャのスイーツを作っていく毎に特徴を理解し、より良いスイーツが作れるようになった
- ・ 最初から成功してしまうよりも、失敗を積み重ねたからこそ、より多くのことを学べた

7

## まとめ～教員編～

平成29年3月卒業 食品化学科 進路決定100%！！

在籍数・・・38名

「食・農」に関連する進学者⇒30人中 約83%

「食・農」に関連する就職者⇒9名中 約55%

自己満足かもしれませんが、概ね目標を達成したかと思っています

8

## 今後は...

- ・ 現在の関係を継続し、さらに発展させていくための努力
- ・ さらなる、校内での教員や生徒への周知
- ・ 年間を通じ里川カボチャを活用し実習をさせるための施設設備の工夫
- ・ 「食・農」への興味関心を高め、「食・農」への進学、就職を高める工夫
- ・ 地元地域や茨城県への興味関心を高めるための授業の工夫

9

## 里川カボチャの魅力を伝えるために ～私たちのチャレンジVOR.1～

茨城県立水戸農業高等学校—食品化学科—1年

鴨志田 優月 飯村 歩未  
大津 ひなた 高土 夏花 野平 祐美

1

## 1 はじめに

•先輩が茨城大学人文社会学部とコラボしていた、里川カボチャについての活動を行っていた

•私たちは、里川カボチャに興味を持ち今年度からは、受け継ぐこととした

2

## 2 目標

**最終目標！！**

里川カボチャを知ってもらい、常陸太田市里美地区のPRにつなげる

↓そのために

**今回の目標**

里川カボチャを使ったスイーツをつくり、茨城大学の文化祭で販売

3

## 3 研究内容

6月21日	ミーティング開始	茨城大学との顔合わせ・打ち合わせ
7月 4日	候補決定・班決め	プリン・ポップオーバー・シュークリーム・パイの4つに決定
9月19日	レシピ作製①	
10月10日	レシピ作製②	
10月15日	里川カボチャ収穫	常陸太田市里美地区にて
10月31日	試作品+試食会	里川カボチャを使ったパイに決定
11月 8日～10日	茨苑祭用パイ作り	8～9日 カボチャ餡作り 10日 パイ310個作製
11月11日～12日	茨苑祭当日	310個のパイを販売（完売！！）

4

## 里川カボチャパイ材料

材料「約13個分」

生地	カボチャの餡	
• 冷凍パイシート	• 里川カボチャ	500g
(短い部分を半分にカット)	• 牛乳	200g
	• グラニュー糖	50g
	• バター	30g

5

## 里川カボチャパイ作り方

- ① カットしたカボチャをレンジで加熱する
- ② すべての材料を鍋で煮る
- ③ ②をパイシートにのせる
- ④ ③に溶いた卵黄をぬる
- ⑤ 200℃のオーブンで約20分焼く

6

## 里川カボチャパイ&ポップオーバー 餡の作り方

- ①カボチャの皮をむいてカットし、耐熱ボールにカットしたカボチャを入れる
- ②ラップをし、700Wで約15分加熱する
- ③柔らかくなったカボチャをフォークでつぶす
- ④グラニュー糖とバターを入れさらにつぶす
- ⑤鍋に牛乳とつぶしたカボチャを入れ弱火の火にかけ混ぜる
- ⑥鍋から取り出し、カボチャの餡の粗熱をとる

7

## ポップオーバー材料

材料『8個分』

生地		カボチャの餡（約26個分）	
・卵	120g	・里川カボチャ	500g
・塩	1g	・牛乳	200ml
・油	20g	・グラニュー糖	50g
・強力粉	50g	・バター	30g
・薄力粉	50g		

8

## ポップオーバー作り方

- ①ボールに計量した全卵を入れ、泡だて器で溶きほぐす
- ②牛乳、塩、油も加えてよく混ぜ合わせる
- ③粉を加え、泡だて器でダマがなくなり、なめらかになるまで混ぜる
- ④ラップをして約10分程度休ませる
- ⑤紙の型に6割程度を目安に生地を注ぎ入れる
- ⑥予熱済のオーブン220℃で約15分、その後180℃に温度を下げさらに15分焼く
- ⑦しかりふくらんで、サイドの焼き色がついたら出来上がり
- ⑧型から取り出し半分に切って、カボチャの餡を上に乗せる

9

## 今後の課題

- ・パイでは、里川カボチャの特徴を活かしきれなかったためさらに試作や改良を続けていきたい
- ・ポップオーバーは、時間がかかりすぎたため作業効率をもっとよくなるよう、さらに改良し続けたい
- ・里川カボチャの魅力を活かした様々なスイーツを考案したい
- ・他のイベントにも参加し積極的にPRしたい

10